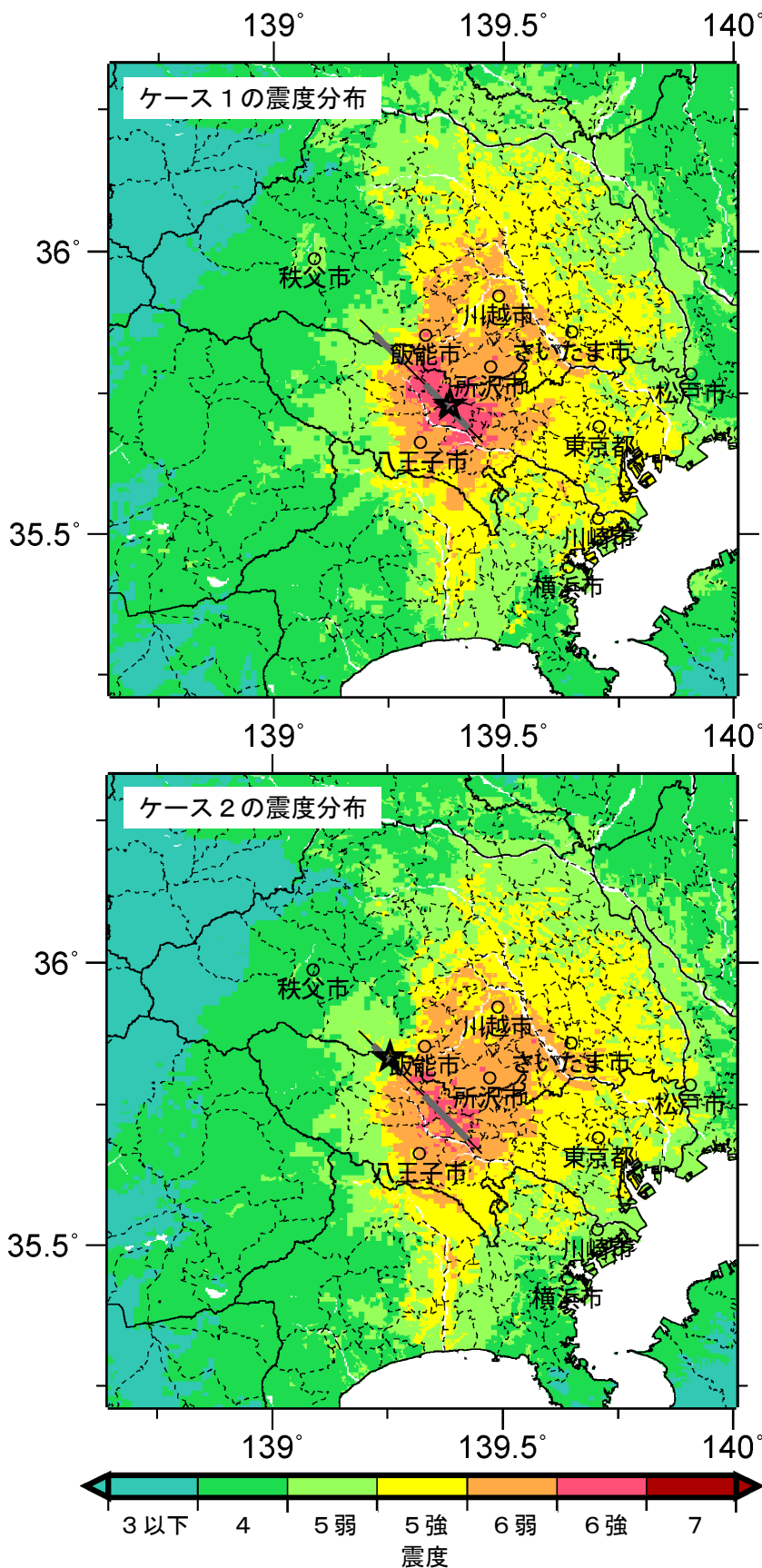


震源断層を特定した地震動予測地図

全国一律に手続き化された強震動予測結果の例（立川断層帯の例）



震源断層を特定した地震動予測地図とは、ある特定の地震の破壊のシナリオが生じた場合に各地点がどのように揺れるのかを計算してその分布を地図に示したものです。

今回、全国一律に手続き化された強震動予測手法（レシピ）に基づいて、全国の主要活断層帯で発生する地震の震度分布を予測しました。

複数の代表的シナリオが想定されており、現象の多様さ・複雑さの一端を知り防災行動に役立てたいものです。左の例では、断層の南東側のアスペリティから破壊が開始するケース1と、断層の北西側のアスペリティから破壊が開始するケース2とが、それぞれ設定されています。

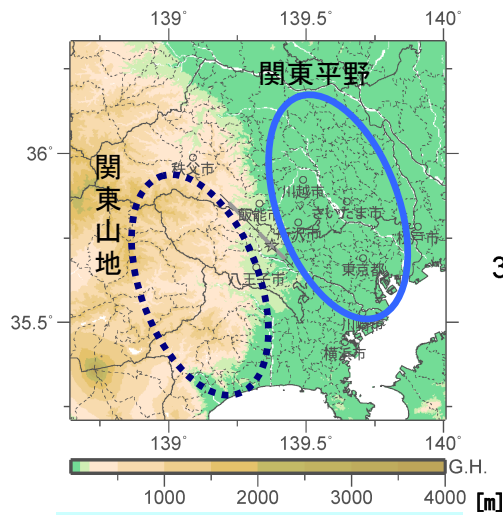
震源断層を特定した地震動予測地図の見方のポイント

全国一律に手続き化された強震動予測結果の例（立川断層帯のケース1の例）

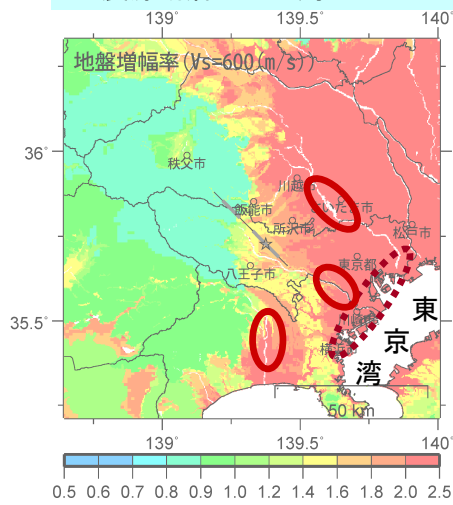
軟らかい地層が厚く堆積している平野や盆地等では、増幅が大きく、山地や台地に比べて大きな地震動に見舞われます。この例では、断層を挟んでほぼ対称の位置にあるにも関わらず、

東方の関東平野側では
西方の関東山地側に比べて、はるかに大きな地震動に見舞われています。

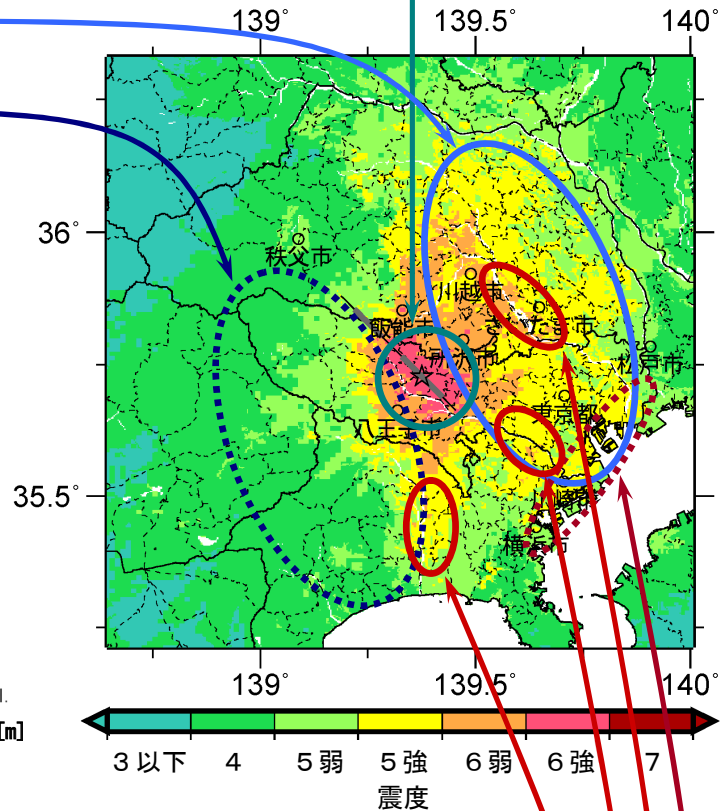
アスペリティ（主要な破壊領域のこと）の直上や至近では、大きな地震動に見舞われます。



震源断層モデル周辺地形



S波速度 $V_s=600 m/s$ 相当層に対する表層地盤増幅率分布



地表面の震度分布

表層地盤の良くないところでは、増幅が大きく、大きな地震動に見舞われます。この例では、例えば

相模川沿いの低地
多摩川沿いの低地
荒川沿いの低地

あるいは

東京湾岸の低地

などで、周囲に比べて相対的に大きな地震動に見舞われます。